

3・11から1年4ヶ月が経ちました。しかし、放射能汚染は、様々な形で、日本の隅々に広がり海洋汚染は、太平洋の広域に広がってきました。原発避難民は、いつ帰れるのか希望も見えません。事故調査委員会は、先頃の報告で、「安全神話」が根本原因であり、各々の専門家からの指摘がありながら、事故への準備を怠った人災であると断じました。しかし、いまだに誰も責任を取っていません。政府は、多くの国民が反対する中、「国民の生活を守るため」と、大飯原発の再稼働を強行しました。原発の命綱である非常用取水路の下に断層が横切っているが、それは活断層ではないかと、何人もの専門家が、再調査すべきだと指摘しています。ところが、関電は、調査もせず、過酷事故対策が確立していない状況で、さらに高浜原発を動かしたいという、全く異常な事態です。

食品の放射能汚染では、「風評被害」という言葉に「安全神話」と同じ意図を感じます。放射能汚染という実害がありながら、「汚染ではなく、本当は安全なのだ」という都合の良いメッセージを刷り込んでいるのです。

内部被曝は、微量でも有害な反応が起こるのですが、起こり方には、個人差が大きいのです。この個人差が、実は、放射性物質に対するアレルギー反応の有無ではないかと、1年間の経験でわかってきました。もちろん、放射能汚染度の明確な物（私たちの場合は、茶葉）と、O-リングテストという検査法が無ければ、わからなかったものです。同じものを食べる家族の中でも、症状の出る人、出ない人があります。症状も、実に様々です。多いのは、筋肉の疲れ、だるさ、痛みです。それも、手足や肩、腰に多く、胸・腹筋には少ないようです。皮膚には、蕁麻疹様であったり、汗疹様だったり、アトピー性皮膚炎として出たりしますが、とても痒みが強いように思います。他に、胃痛、下痢、体重増加不良、のどの狭窄感や痛み、集中力低下、イライラ感、鼻、耳、眼の異常、頻尿などです。また、感染症にかかりやすく、治りにくくなってきているように思います。

様々な食品が、飼料や肥料または加工過程で汚染されてくる可能性が大きい為、産地を選ぶだけでは、治療は困難です。「原発事故と食の安全（4）」に書きました食材の除染法は、意外な程有効です。続ければ、1ヶ月程で良くなっていきます。それでも改善しない場合は、食材をすべてチェックしますと、問題のありかを見つけることができます。そして、放射性セシウムに対するアレルギーもほぼ無くなっていきます。ただ、治ったと思ってすべて元に戻すと再発することがよくあります。魚や肉、きのこなど注意を続けることが大切です。

昨年来、放射性セシウム汚染サンプルとして使用した無農薬茶は321ベクレルでしたが、同じ所の今年の茶葉は、31ベクレルと減衰していました。陸地のものは、次第に減っていくのですが、湖や海は汚染が広がり、生物濃縮がおこります。すべてのものを詳しく測定し、公表し、消費者が、体質や体調、考え方で選べるようにしてほしいものです。更には、放射性ストロンチウムやプルトニウム等も、測定、公表してほしいものです。

私たちの食文化は、大きく変わらざるを得なくなりました。被害は、世界へ広がろうとしています。巨大化したテクノロジーを扱う人間の能力・精神・社会は、それにふさわしく発達してきているのか、問い続けなくてはならないと思います。